

## 「今後のNPO施策の方向性(案)」に対する意見照会の結果

### 1 意見の募集期間

令和7年12月22日(月)から令和8年1月20日(火)まで

### 2 意見照会の方法

県ホームページ(NPO活動支援サイト)に掲載

(併せて、県内市町市民活動担当課宛て文書により意見照会)

### 3 意見の提出状況

提出者2者(5件)

### 4 提出された意見の概要及び対応 ※本体の修正なし

No	意見の概要	意見への回答(対応)
1	4ページ(施策目標)~5ページ(目指す姿)「NPO等が社会貢献活動を…」、「NPO等による社会貢献活動の…」という記載に関し、NPO以外に想定しているのはどういった主体か。	4ページに記載の「企業等他セクター、若者等」を想定しています。
2	4ページ(概要(方向性)、想定される主な取組)「NPOとの連携を通じた政策実現」について、政策を実現していく主体は県と捉えてよいか。その場合、想定される主な取組として、県とNPOとの連携を見据えた取組を記載すべきではないか。	県が、NPOの意見等を踏まえながら、様々な政策を実現していくことを想定しています。 対応する主な取組としては、「NPOと行政等との連携・協働可能性事業の洗い出しや実現の促進」を想定して記載しているところです。
3	4ページ(想定される主な取組)「NPO、企業等他セクター、若者等社会貢献担い手人材による広域的・横断的な交流の促進」を「NPOと企業等他セクターや若者をはじめとした社会貢献意欲の高い人材をつなぐ、広域的・横断的な交流の促進」としたらどうか。 (理由) 文意をわかりやすくするため。	NPOとNPO以外のセクター、人材との交流促進だけでなく、NPO同士や担い手人材同士の交流等も想定しているため、従前の「学生や企業等他セクターとNPOとの交流の促進」から左記の表現に修正しています。 このため、現時点で修正はしませんが、取組を進めながら、NPOを中心とした社会貢献の担い手同士の効果的な関わり方を引き続き検証・検討していきます。

No	意見の概要	意見への回答(対応)
4	<p>行政側のスタンスに違和感を覚える。NPOを支援する対象という前提で、どんなサポートが必要か、という視点を変えてはどうか。市民自治を原則として考えた場合、NPO、市民活動は特定の行政分野ではなく、あらゆる分野において社会を構築していく上で行政とは両輪となっていくべき存在であり、あらゆる部署とパートナーシップを組んでいくべき存在であると思う。担当部署には各専門部署との橋渡し役になっていただくのが良い。</p> <p>このため、図として、県→NPOという一方通行の支援イメージではなく、双方向の⇄矢印の中から、いかにして良い社会、県民個々人のウェルビーイングを共に向上させていけるかという方向性で再度検討いただけると良い。</p>	<p>御意見をいただいたとおり、県は、NPOを行政と対等なパートナーシップを組んでいくべき存在であると考えています。</p> <p>3ページ「NPOと県との今後の関係性」の図では、NPOが抱える課題を解決し、活発な運営をしていくためのリソースとして「対等な連携・協働パートナー(行政を含む)」等と捉え、一方で、リソースを持たないNPOのリソース獲得のためのサポートや環境づくりを施策として実施していくことを表しています。</p> <p>担当部署による各専門部署との橋渡し役との御意見については、4ページの表の「主な取組」における「NPOと行政等との連携・協働可能性事業の洗い出しや実現の促進」で対応していきます。</p> <p>一方通行でNPOを支援するのではなく、NPOが活躍しやすい環境づくりに取り組むことで対等な関係性を持ち、共に「県民幸福度の高い、活力ある地域」(5ページ)を目指します。</p>
5	<p>具体的な目標設定、指標設定が難しい分野ではあると思うが、NPO・市民活動が持つ、企業や学術とは異なる価値、その発展が県政、県民生活にどのように貢献するかの解像度を高めて行けたらよいと思う。</p>	<p>現時点では、NPO・市民活動が持つ、県政、県民生活への貢献度を明確に表す指標の設定や、解像度を高めることは難しいですが、今後もNPO関係者の方々との意見交換等を行いながら、取組を進めてまいります。</p>